

特集

老い

「老い」という言葉にどのような印象をもちますか。ポジティブな印象でしょうか、ネガティブな印象でしょうか。高齢になれば誰しも、加齢によって生物学的な機能の衰えや、社会的な役割やつながりの縮小を経験することになります。現代社会では、さまざまな側面の喪失体験につながる「老い」にネガティブになりがちなのではないでしょうか。

「アンチエイジング」にまつわる情報や広告は世の中にあふれています。エイジング (aging) = 年をとる・老いる、ことであり、「アンチエイジング」は、老いることへの抵抗や拒絶であると受け取ることができます。しかし、「老い」は誰にでもやってくるものです。今現在の日本では、四人に一人が65歳以上の高齢者です。長寿社会において、当事者や周囲の人々、また社会が「老い」について適切な知識と理解をもって受け入れていくことが求められるでしょう。

本特集では、さまざまな角度から心理学的に「老い」について検討された研究を紹介します。

(下津咲絵)